

待望の第一陣4羽渡来

11月2日6時48分、十べツル4羽（含幼鳥2羽）の1家族が渡来しました。第1陣の到着は昨年より2日遅く、11月へのずれ込みは1992年以来17年ぶりでした。遅れたので待っただけ渡来の喜びは大きかったです。

成鳥1羽の足が悪いことや幼鳥の首の黄色の部分に遺伝的に茶色まいことから10年来続けて渡来している家族であることが分かります。

1日の雨は夕方には止み、夜は明るい月夜、3日からは寒波が来るとの天気予報でした。そんな晴れた2日の朝、ツル渡来の予感には十分にありました。ツルの大部分は夜間にねぐらに到着し夜明けと共にえさ場に出て来るのです。3人で明るくなってくる西の空を見ながら待ちました。だんだん明るくなり6時40分を過ぎても出ません、「もう今朝は来ないのだろう」3人は分かれて帰りました。しばらくして西の空を見ると4羽の十べツルがこちらに向かって飛んでいるではありませんが、一瞬目を疑いましたが間違いありませんでした。心配も吹っ飛び歓声をあげました。

昨年度は9羽が飛来しましたが、先着のツルに追われて5羽が去り、越冬数は過去最小の4羽に留まりましたが、今年はもう2家族は渡来して定着し、昨年を上回って欲しいと思っています。



ツル保護研究員 河村宜樹

6・6〇・9〇6・6〇6〇・96・6〇・9〇6・6〇6〇・96・6〇・9〇6・6〇6〇・96・6〇・9〇6・6〇6〇・9

漫画家 なかはらかせさん から 八代へのメッセージ! (No.13)

11月にやって来た第一陣の家族4羽が微笑ましい。
頭の茶色い2羽がいかに子どもといった様子で
いつも親のまねをして餌をついばんでいる。
幼鳥にしてみれば、はじめての大冒険だったはずだ、
はるか大陸から海を越えて飛んでくるのだから。



着いたその日、長旅でおちた体力をはやくもどすために親が子どもに必死にミミズを与えているのを見かけた。それがボクには、がんばった子どもたちへのご褒美のように思えてならなかった…それはまるで人間の親子のように。

ツル放鳥 特集



3羽の保護ツルは今

平成20年4月12日に移送され、飼育を開始してから584日（11月17日現在）。2度の夏を越えた3羽は今日も元気にケージ内で生活しています。今年の夏は暑かったせいか、暑さよけの為に設置したスプリンクラーを動かすと、そのまま2時間、3時間と水浴びを続けるような姿が夏中続きました。それでも夕方になって涼しくなると、ケージ内を飛んだり跳ねたり元気な姿を見せてくれたので一安心です。食欲も旺盛で、置かれたワカサギを飼育員さんが別の作業をしている隙に丸呑みしてみたり、秋にはバッタやコオロギを走って捕まえてみたりと「よく食べる」なーと関心してしまいました。

本年は、一つ新しいことが分かりました。飼育中の1羽の風切羽が換羽（生え変わり）したのです。ナベヅルを含め、ツル類の換羽については、まだまだよく分かっていないことが多く、どのタイミングで・どのように抜けて・どのぐらいで生え変わるのか分かっていませんでした。放鳥の際に、風切羽の欠損は、飛行能力の低下につながるなどの意見もあり、風切羽の換羽については飼育中の大きな課題の1つになっていました。それだけに、今後の保護ツルの治療、そして放鳥を行う際に大変参考になる事例となりました。

この換羽したツルについては、本年放鳥を行う予定としています。無事に野外へ飛び立てるように、そしてシベリアへ北帰行し、また日本へ渡ってきて

もらえるように放鳥までの間万全の体制で飼育して行きます。もちろん今回放鳥されない2羽についても、無事に換羽して野外に帰れる日が迎えられるように飼育を続けていきます。



飼育中の3羽



周南市教育委員会 生涯学習課
鶴担当 増山 雄士

第4回

「生きもの与人・共生の里を考えるシンポジウム」開催

11月6日(金)～11月7日(土)にかけて標記シンポジウムが、鹿児島県出水市で開催された。このシンポジウムは当協会の主催により平成18年に周南市で発足し、その後、メンバーであるトキの佐渡市、コウノトリの豊岡市と場所を変え、今回が4回目の節目の開催となった。

シンポジウムは四市の市長、関連の国、県、市の関係者及び、民間団体が参加し「生きもの与人の共生」を考える進歩的な試みとして評価を受けている。昨今の急激な社会経済の変化の中で、暮らしのスタイルの変化とともに、各地のいきものと共に暮らす伝統は途絶えつつあり、かつて身近にいた野生のいきものの多くが減少し、姿を消しつつある。このような状況を危惧し、失われた自然環境の再生や、絶命のおそれのある野生生物の保護や野生復帰への取り組みもさまざまな形で行われている。

こうした日本各地で行われている生きもの与人との共生への取り組みについて、情報と経験の交流を図り、生きもの与人とのよりよい関係の構築と、さまざまな関係者による協働の可能性を模索することをこのシンポジウムの目標としている。

11月6日(金)午前10時、徳山駅を当協会西岡会長、「八代のツルを愛する会」上田会長、事務局の末松で出発。博多でラムサールジャパンの岩間徹さん、中村玲子さんと合流し、リレーツバメにて出水へ向かう。15時よりツル渡来地である荒崎、東干拓の視察。車中、及び現地ではクレインパーク奈良館長により羽数調査を明日にひかえた現地の様子についてつぶさに報告を受けた。また、市の観光のメインである武家屋敷群も見学した。

市長の参加は今回、豊岡市の中貝市長のみの欠席(副市長代理参加)で、当周南市の島津市長、佐渡市の高野市長と出水市長が参加された。会場のホテルに戻り、18時より「ちょっと勉強会」と称し、交流会の前にこれまでも親しくお付き合いをしている時吉

鹿児島県ツル保護管理員のお話を伺った。今までは伺うことのできなかつたさまざまのご苦勞を目



交流会、4市長

の当たりなし、生きものの保護、共生することの「すさまじさ」を感じた。その後の交流会では出水市 渋谷俊彦市長の進行よろしく心を同じくするもの同士の情報交換に花が咲いた。毎回のことだがこの会の持つ大いなる意義が感じられるひと時となった。

翌7日(土)6:30より荒崎において定例の羽数調査が行われ、参加者有志も参加しカウントの結果、すでに1万羽に近い飛来が認められた。10:30より出水市中央公民館で実行委員会が開かれた。第1回目から実行委員として参加する団体の代表者による会議だが、今回は4市では最後の機会となるため、今後の方針も含めての協議となった。渋谷市長の進行により参加者から、現状や今後について意見の発表があった。当協会からは会長がこれまでの経緯について説明した後、前回の豊岡でのシンポジウムの際に決議された来年11月に行われる「生物多様性戦略」に関するCOP10に向けての情報発信の具体的取り組み方策について意見発表を行った。これについてこの件の窓口役の豊岡市より環境省との協議の経緯や参加の方法などが言及された。4市での参加が決議された後、今後の進め方についての協議が行われたが、周南市長より周南市での開催が提案され、了承された。内容や規模については4市において協議の上、進めることとなった。